園だより特別号７

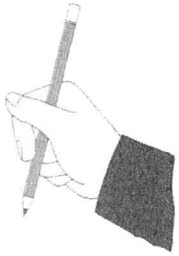
高　橋　保　育　園
令和７年９月２９日
文責（中薗）

園長のつぶやき⑥
「鉛筆が正しく握れない」

保育園では，まだ，鉛筆を握って文字を書くことはしていませんが，これから文字を書く段階に入っていくので，参考までに，紹介します。

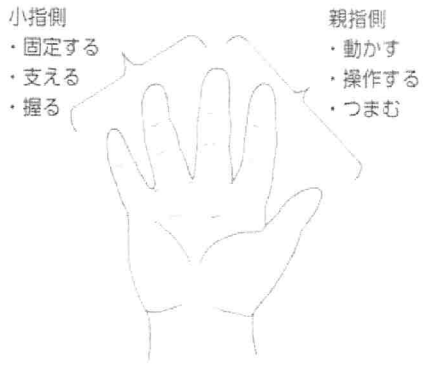
特別支援学校の巡回相談員で，小中学校を回ってきた経験の範囲で言わせていただくのですが，少なくてもクラスの２割，多いところでは半数近くの子どもたちが，鉛筆を正しく握ることができていません。正しい鉛筆の握り方が授業中の姿勢にどんな影響を与えるか，考えてみたいと思います。

正しい握り方ができていない子の多くは，右図のように親指の付け根で鉛筆を強く握りこむようにしています。そのような握り方をすると手首を柔らかく使うことはできません。そのため，きれいな文字が書きづらくなるばかりか，握っていることに疲れて集中が途切れやすくなります。

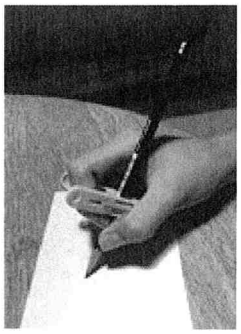


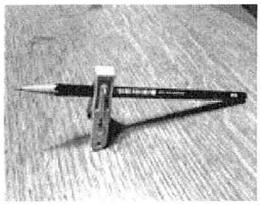
また，この握り方では，ペン先が，手の陰に隠れて見えません。ペン先を見ようとするために，左図のように，身体を左に（左利きのこの場合には，逆方向に）傾けて横方向からペン先を見ようとします。姿勢が崩れるだけではありません。左腕が，身体を支えようとするために机上に大きく乗ってしまうため，プリントやノートの大部分のスペースが左腕に大きく隠れます。

この状態のまま書くためには，プリントを斜めに置かなければなりません。姿勢の崩れがさらに助長されます。姿勢が崩れれば，先生の言葉にも注意を向けにくくなります。



鉛筆を正しく握るには，実は，**小指・薬指が正しく働いているか**どうかが重要になります。手先を器用に動かすことができるようになるには，「固定する・支える・握る」といった機能を支える小指～中指までの３本と「つまむ・動かす・操作する」といった機能を支える親指～中指（中指は重複しています）がそれぞれの役割を担っている必要があります。小指を，薬指をしっかり握りこめていることが，親指～中指の３本指の器用さを支えているのです。鉛筆，はさみ，箸・・・３本指を操作する場面では，小指と薬指は無意識のうちに握りこむ形になっています。鉛筆を正しく握るためには，鉛筆に触れる３本指以上に，鉛筆に触れていない小指と薬指が大切だと言えます。





対症療法的には，市販のうずまき鉛筆，三角鉛筆，鉛筆に，はめる補助具等を使って，正しい握り方を修正してあげることが大切です。小学生になったら，写真のように，洗濯ばさみの上から鉛筆を握ると，親指が伸びないで正しい握りになります。おまけに，洗濯ばさみを鉛筆にはさんで，机の上に置くと転がりません。

根本的な対応を考えると，うんていや上り棒，綱引きなどの指を使う運動がおすすめです。お手玉や，竹馬，木登りといった昔の遊びのなかにも，薬指や小指をしっかり使い込む要素が入った遊びがたくさんあります。**乳幼児期に身体を使った遊びこみが必要な理由**がここにあります。

参考文献　「発達のつまずきから読み解く支援アプローチ」　川上康則